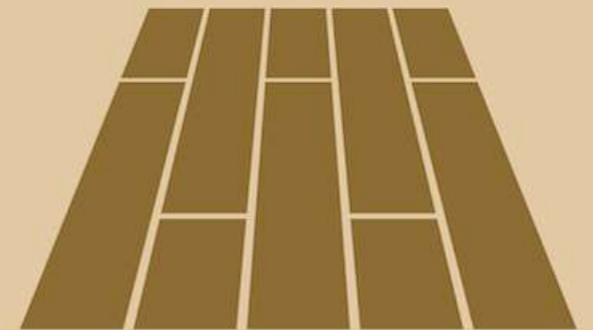


FLOOR
C A T A L O G

UenoJyuken
Floor Catalog Book

UENO JYUKEN



UENO JYUKEN

Floor Catalog Book

- 1 はじめに
- 2 ARCHITECT INTERVIEW
- 2 - Case.1 時間と共に変化する自然素材 手塚貴晴 加藤積一
- 6 - Case.2 建築の品格と美 城戸崎博孝
- 10 - Case.3 ランドスケープと室内デザイン 天野一博
- 14 - Case.4 建築デザインにおける床材の役割 小島光晴
- 18 - Case.5 空間のスタイリングと建材選び 高津久嗣
- 22 取扱商品一覧
- 23 仕上げとお手入れ
- 24 素材・性質から床材を選ぶ
- 26 Admonter アドモント
- 28 - Admonter - Oak オーク
- 36 - Admonter - Hard Wood ハードウッド(広葉樹)
- 40 - Admonter - Soft Wood ソフトウッド(針葉樹)
- 42 Ueno Original Floor オリジナルフロア
- 44 - Ueno Original Floor - Solid ソリッド
- 50 - Ueno Original Floor - Plywood プライウッド
- 59 - Ueno Original Floor - UV Painting Program
- 60 Bordeaux Pine ボルドーパイン
- 64 Nordic Pine ノルディックパイン
- 66 Bruce ブルース
- 67 Paulownia 桐フロア

はじめに

住宅は、屋根や壁、窓など様々な要素で構成されています。

床はその中のひとつに過ぎません。

しかし、私たちはその床こそが人の生活においてとても重要な役割を担うと考えています。

なぜなら床は、住宅の中で人が最も多く触れる面であり、

コミュニケーションをとる場だからです。

UENO は 30 年に渡って一貫して木の質感にこだわった商品を

世界中より集め、お届けしてきました。

ここで紹介している床材は良質で、住む人と共に時を重ね

永く使っていただけるものばかりです。

このフロアカタログでは建築のプロフェッショナルの床に対する考え方やこだわりがわかる読み物、

木の特徴や実際の空間事例など、床材選びのヒントを掲載しています。

それぞれの住まいに合った床材選びをしてもらうために、

プロの皆さまとお施主さまとのイメージ共有のツールとして

ご活用いただければ幸いです。

UENO が扱う個性豊かな床材の中から、

あなたにぴったりの床材が見つかることを願っています。

ARCHITECT INTERVIEW

Takaharu Tezuka

[なすび保育園]

桐フロア | なすび保育園 | 手塚建築研究所
Photo : 木田勝久 / FOTOTECA

時間と共に変化する自然素材

床は人が必ず触れる基本的なエレメント。
一緒に歳をとってくれる“本物の床材”がいいなと思います。

建築デザインにおける床の役割を、手塚先生はどのようにお考えでしょうか。

「床は、人が必ず触れる基本的エレメントなんですね。だって人がのっかるから。壁は触らなくていいし、天井も触らなくていいんだけど、床って直接触れる部分だから差が分かるんです。特に日本人は靴を脱ぐので、肌触りを心配しなくちゃいけない。それに構造は鉄骨でもそのまま使えるでしょう。壁はペンキでもいいかもしれない。でも床は鉄骨そのままってわけにはいかないし、ペンキ塗るわけにもいかない。そういう意味でも床は特別なんです。」

手塚先生は常に経年変化を意識して床材を検討されていると思うのですが。

「床がいつも綺麗でなければいけないという考えは、靴を脱いで生活する日本の習慣にあると思うんです。でもそれだけじゃなく、現代的な要求も含まれる。新しいものはずっと新しくピカピカであるべきという。でも本当は昔から床というのは糠で磨いて、ずっとメンテナンスして長生きするものでしたよね。そして人とともに時間を経ていく。木が面白いのは、年輪があることです。そこにときが刻まれているんですよ。それを上手く出していくっていうのはすごく大事なんです。」

最近の物件ではボルドーパインを使っていたいただきました。

「ボルドーパインは節があっていいですよ。それが自然のあり方ですから。むしろ幅広の厚みがとれるのは節があるからですよ。節を許容すればこんなに立派な床材に入れられるのかと思いました。別の話になりますが、以前南三陸のプロジェクトで400年の杉を使う機会があったんですけど、歳月を経て目の詰まり方がすごいんです。硬さが全然違う。歴史がある木というのはこういうものかと実感しましたね。本物の木はやっぱりいいですよ。」

ただ、床は面積が大きい分、真っ先にコストカットの対象として挙げられてしまうこともあります。

「ありますけど、床材は最後まで踏みとどまるところです。絶対に張り物は使わない。ビニール調の木調の床なんか絶対に嫌ですね。あと表層が1mmの床は使いません。傷がついたときに下が見えないように、5mmは欲しいな（笑）べらべらの張り物の床と本物の木の床って全然違うんですよ。隙間があろうとなかろうとそんなのは関係なく、本物と偽物では断然の違いがある。本物はくたびれたら味が出るし、そういう意味で歳と一緒にとってくれるっていうのはいいなと思いますね。」



手塚建築研究所

手塚貴晴

Takaharu Tezuka

建築家、手塚建築研究所代表、東京都市大学教授。

1964年、東京都に生まれる。1987年武蔵工業大学建築学科を卒業後に渡米し、1990年ペンシルバニア大学大学院を修了。イギリスのリチャード・ロジャース・パートナーシップ・ロンドンに勤務のあと、1994年に帰国し、パートナーである手塚由比とともに、都内に手塚建築研究所を設立。

外部環境と一体化した空間設計を得意とし、住宅から公共建築まで広く手がける。特に、OECD(世界経済協力機構)が世界で最も優れた学校に選んだ「ふじようちえん」など、子供のための空間設計で世界的に高い評価を受ける。

代表作は「ふじようちえん」の他、屋根の上で生活が展開する「屋根の家」や、深さ5メートルの雪の下に埋もれる自然科学館「森の学校キョロロ」、津波で塩枯れしたお寺の巨木を使った「あさひようちえん」、沖縄の自然と溶け合った空間を提供する不妊治療施設「空の森クリニック」、折り紙のような形がつくる強さを利用した木構造の「富岡商工会議所」など。

国内外の受賞歴に、日本建築学会賞(作品)(2008年 ふじようちえん)、日本建築家協会賞(2008年 ふじようちえん)、グッドデザイン金賞(2013年 あさひ幼稚園)、日本建築家協会優秀建築賞(2015年 空の森クリニック) WAF 2018 Winner School-Completed Buildings(muku nursery,2018) など多数。



Case.1

時間と共に変化する自然素材

学校法人みんなのひろば理事長
ふじようちえん園長

加藤 積一

Sekiichi Kato

「ふじようちえん」のフロアにシリアンパインフロアを採用していただきました。竣工から年月が経過しましたが、床の変化、使い心地はいかがですか。

「当時は白かったですよね。できたてほやほやの状態。今はだいぶ色が変わりました。でも木が時間とともに変化をするのは当たり前ですから。木の経年変化を「経年美化」ととらえる人と、汚いと思う人というと思うんですけど、日本は経年美化を理解できる文化だと思います。手塚さんの建物ってほしいそうなんじゃないかな。作ったときもいいけれど、だんだん空気と一体になって馴染んでいくっていう。この幼稚園は建物と文化が合っている。それがよかったなと思っていますよ。」

子どもたちにとっても、変化する自然の素材と触れあうことで、何か得るものがあるのでしょうか。

「汚れや反り、歪みって、自然の木はあって当たり前だから。それを子どもたちが裸足で踏んでいるわけですよ。例えばとげなんかも。今はそれを自宅でなかなか体験できないんですよね。家に畳がないご家庭も多いですし。自然のものが少し不便だったとしても、不便による利益、「不便益」というのが逆にあると思うんですよ。子どもたちが何の負荷も与えられずに育っていくのは、

経年劣化ではない。
日本は「経年美化」を
理解できる文化。

むしろ不利益。やっぱり本物と付き合わない。表が綺麗でも裏では化学物質が出てくるみたいな素材も世の中にはあるでしょう。あと、自然の木には微妙な変化がありますよね。それを嫌う人もいるけれど、物事はマイナスで見るかプラスで見るかですから。自然の木の上で裸足で生活すると土踏まずもちゃんとできるし、健康にもつながると思うんですよ。」

素材の特性が、子どもたちの成長に一役買っている部分もあるということですね。

「自然素材を使うことに負の側面があったとしても、それと上手に付き合っていくために、使い方を工夫することで子どもが育つというのがありますよね。完璧なマテリアルなんてないから。全部が育つための道具なんです。その点で自然素材を足の裏で感じてもらう、このパインの柔らかさを感じてもらう、それが大事なんです。それに、いいものはずっと使えるんですよ。この床材は新品のときもよかったけれど、今は落ち着いてきてまたそれはそれでいいですよ。居心地がいいですよ。」



【ふじようちえん】

ふじようちえん | 手塚建築研究所
Photo: 木田勝久/FOTOTECA

ARCHITECT INTERVIEW

Hiroataka Kidosaki



【三上邸】

アドモント オーク節なし | 三上邸
城戸崎建築研究室 | Photo : 45g Photography 小島

建築の品格と美



城戸崎建築研究室

城戸崎博孝

Hiroataka Kidosaki

1942 東京都生まれ
 1966 日本大学理工学部建築学科
 1966-1979 松田平田 設計事務所
 1977 英国シェフィールド大学修士課程
 1979-1993 丹下健三・都市・建築設計 研究所
 1993-2005 アーキテクトファイブ
 2000 城戸崎建築研究室

受賞歴

【難山の家】
 日本建築家協会優秀建築選 2010 選定
 2011 ASIA PACIFIC PROPERTY AWARDS
 "highly commended" 受賞
 【ハッ岳の家】
 2014年 Modern Living BEST6 賞 受賞
 2014年度 10周年 Modern Living 大賞 受賞
 Archidaily 2014 BestArchitecture20 選出
 Archilovers 2014 Best30 選出
 日本建築家協会優秀建築選 2014 選定
 日本建築学会作品選集 2016
 2018年 グッドデザイン賞受賞

城戸崎先生の作品は常に品格を感じるのですが、デザインにおける方法論や方針のようなものを教えていただけませんか。

私の場合は、まず建築の要素を精査して、整理して、なるべく少ない要素の下でデザインをしていく。それが基本的な設計姿勢です。特にやり方としては、5mmと10mmにこだわること。例えばスイッチプレートひとつにしても既成の物を使わないで、5mmと10mmのスケールにこだわってデザインしたのを使っています。そうやってディテールを突き詰めていくと、その積み重ねで建物が光ってくる。建物に品格が出てくる。さらに年が経つと、それが風格に変わっていきます。

どこという一部分ではなく、建物全体の雰囲気語りかけてくるような気がします。

私の建物というのは、「すっきりして清々しくよかった」、「どこがいいのかは分からないけれどなんとなくよかった」という感想を持たれますが、そういった印象なのは、私の設計が正解だったということです。むしろ「あの部分が好きだった」という部分的な表現をされたらだめ。寸法的にはとにかく5mmと10mmをすべてに徹底する。それがベースなのです。私の設計は、パッと見ると他のスケールがそこに見えてこない。

同じやり方をずっと突き詰めているということなのですね。

建築家だから挑戦的に新しいことをやりたくなるけれど、私はとにかく同じものを深く突き詰めていきます。いろんなことをするより、同じことを突き詰めた方が深いから。徹底してやると、建物が美しく語りかけてくる。気品が出てくる。すべてそう。その空間が輝かないはずがない。

その中で、弊社のアドモントフロアを採用していただくのには、やはり理由があると思うのですが。



UENOさんのアドモントフロアは節が少なく面が美しいから、それが好きです。単板の上が4mmと厚い。幅広なのもいい。目地をVカットしても側面が綺麗に見えるから安心で、上だけじゃなく下の部分も同材のオークでサンドイッチしているから何の問題もない。素晴らしい材料です。施主によく言うのは、「いいもので安いものというのではない。いいものはそれなりの価格ですが、出せるのであればいいものを使った方がいいですよ」ということです。

施工すると二度と見えない下の部分にもよい素材を使っているというのは、アドモントフロアの特徴でもあります。

以前、日本画の平山郁夫先生のアトリエを設計していたとき、お部屋で先生が下絵を描かれるところを拝見したことがありました。大きな駱駝の絵を描くときに足下に岩を描かれていたのですが、次に見たときそこが砂漠になっている。「岩をやめて砂漠にされたのですか」とお聞きしたら、そうではない。砂漠の下にちゃんと岩を描いてそれから砂を描くと、駱駝の足の角度が違うんだと。絵を描くにはそこまでやらないといけない、下からちゃんと積み上げていかないとだめなんだということを仰った。それは UENOさんのアドモントフロアにも共通することなんです。見えない部分もきちんとしているところに、本物の床のよさがある。平山先生が描く絵と同じ精神がある。そこに私は目をつけたのです。

そうだったのですね。大変光栄なお話です。

なので、可能な限りアドモントフロアを使いたいと思っています。色も綺麗です。もちろん、分からない人もいますが、見えないところにお金をかけるということには理由があると。でも私の設計には合うのです。面が美しいし、空間を邪魔せず、綺麗にスッと納まる。建物も人間と同じで年とともに熟成していきますから、UENOさんの床のような本物の素材を最初からちゃんと使うことが大切。それによって年月を経てさらに品格と風格が出てくるのです。

要素を精査してディテールに細心の注意を払うこと。
 その積み重ねで品格と風格が生まれる。



[L邸]

アドモント・オーク邸
Photo: 45g Photography 小崎



[離山の家]

アドモント オーク節なしホワイト | 離山の家
城戸崎建築研究室 | 施工会社 株式会社 新津組

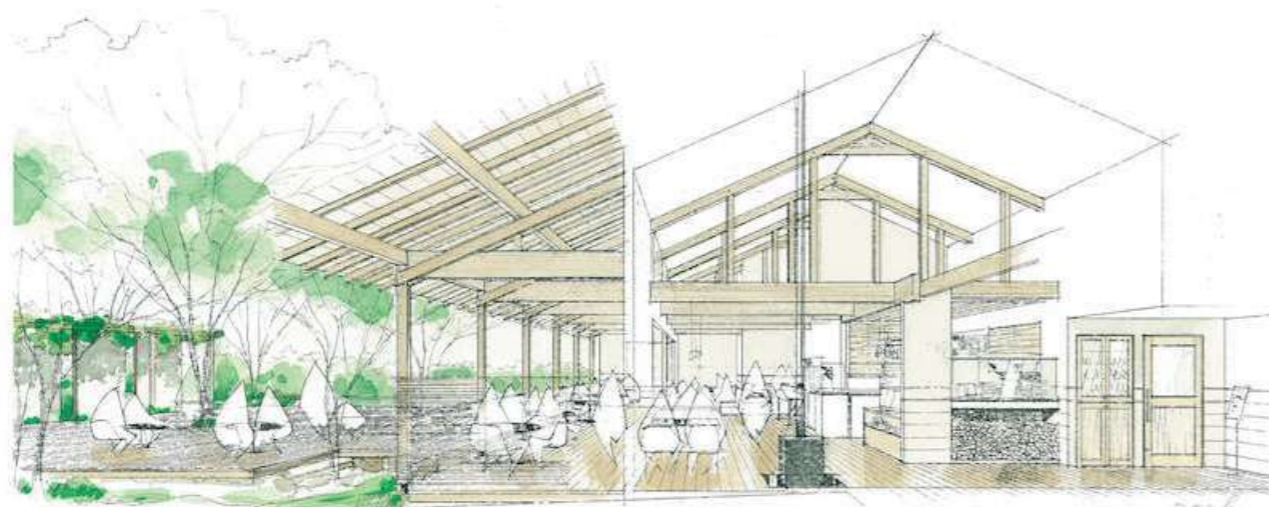
ARCHITECT

INTERVIEW

Kazuhiro Amano

[ラ・ジェンマ]

ポルドーバイン | ラ・ジェンマ | デザインルームアmano
Photo : 山岡昌 / office Y.S



Case.3

ランドスケープと 室内デザイン

中と外を分けずに、
意識してつなぐこと。

天野さんはどういうデザインの方向性でお仕事をされているのでしょうか？

「まずは環境ですね。私は中学時代に生物部に入部して、そのときの恩師に環境問題を叩き込まれたんですよ。自然保護とか動物の生態の研究とか。それでとにかく自然が好き。それと、昔からものづくりが好きだったので、建築を志しました。最初は店舗の内装やインテリアの仕事をやっていたのですが、だんだんと外のデザインもやりたいと思うようになって。うちの建物は、外構と一体で木を植えてやっと完成するんです。でも、だいたい建物をつくと予算がなくなってしまって、それで小さい木（苗木）を植えるから10年くらい経たないという写真が撮れないんですよ（笑）」

スクラップアンドビルドのような考えではなく、景観も含めて、責任のあるものを建てていくということですね。

「建築を考える上で大事なものは、外を想像してそれを中とどうつなげていかなんです。中と外を分けるんじゃなくて、意識してつなぐ。そのために床が一番大事な場所ですよ。」

ランドスケープなどにおける自然物とフロアとのバランスの取り方はどのようにお考えですか？例えば「ラ・ジェンマ」においては、ワイルドなボルドーパインをお使いいただいています。

「自然の素材はいいですよ。あと、床材はやはり厚みがあったほうがいいですよ。歩くと気持ちがいいし、経年変化も楽しめる。壁も左官仕上げが好きですね。あれはやっぱりコテむらがいいというか。そういった『揺らぎ』があるのが人間は見ていると心地いいのです。薪ストーブの火もそうですが、木も風に揺れたりとか。だからフローリングも節がいろんなところにあって、隙間が空いている場所もあったりそうでない場所があったり。そういうほうが落ち着きますね。」

ムラや揺らぎの心地よさが、外観を含めた「景観」として大事なことですね。フロアのパイン系やオーク系の違いはどのように選択されていますか？

「好みもあるんですけど、そこは外とのつながりというよりは、建物全体のイメージで決めることが多いですね。他の材料との兼ね合いとか。床はやはり面積が広いので。家具をまず決めるときもありますけど、それでもやっぱり床が大事で、そこでちゃんと整合性をとらないといけないわけです。だから先に家具を決めてあっても、床を基準に家具を変えようという場合もあります。」

前提として、永く使うことを大切にされているのですよね。

「一番大事だと思います。そのためには、建物に使う素材選びは重要です。景色とつながる設計をすることが大切だと思います。そしてそれをまた誰かが継いでくれるのが最高でしょうね。」



Design Room Amano

天野一博

Kazuhiro Amano

1950年 新潟県西蒲原郡巻町（現・新潟市）生まれ
1982年 デザインルームアマノ設立
1994年 株式会社アクアデザインアマノ本社屋
1999年 株式会社ニュース・ライン本社屋
2010年 くまちゃん動物病院
2014年 株式会社ヘルシーカンパニー 21C本社屋
2016年 東新潟まやま眼科
幼少期はかつて地元存在した鑑淵（よろいがた）という潟湖を遊び場とし刻々と変わる水辺の景観に魅了される。その原体験が景観と建築を一体で捉える設計につながっている。

[ラ・ジェンマ]

ポルドーバイン | ラ・ジェンマ | デザインルームアマノ
Photo : 山岡昌 / office Y.S





ARCHITECT INTERVIEW

Mitsuharu Kojima



[HOUSE MR]

ヨーロッパオーク 148 ラスティック | HOUSE MR
小島光晴建築設計事務所 | Photo : 中村絵

建築デザインにおける床材の役割



小島光晴建築設計事務所

小島光晴

Mitsuharu Kojima

1973 栃木県足利市生まれ。
1992 栃木県立足利高等学校 卒業
1996 工学院大学工学部建築学科 卒業
1998 工学院大学大学院修士課程建築学 修了
1998 株式会社 山本・堀アーキテツ 入所
2001 StudioGreenBlue 設立
2013 工学院大学建築学部 非常勤講師 就任
2013 小島光晴建築設計事務所 改称

受賞歴

2018 A' Design Award & Competition 2018
2017 第45回 日本建築士会連合会賞
2014 グッドデザイン賞 2014
2014 JCD Design Award 2014
2013 第5回 サステナブル住宅賞
2012 グッドデザイン賞 2012
2011 AR House Awards 2011

品のよさと粗さ、軽さと重さ、繊細さと大胆さ…
相反する価値が同居していることに魅力がある。

「『HOUSE ME』に弊社の床材を採用していただきましたが、この物件のデザインはどんなことを意識されたのでしょうか。開放感のある土間がとても印象的でした。

「この住宅は土間を中心にした設計なんです。普通は住宅って閉じている空間なんですけど、あえて開いていることでご近所の方も入ってこられるよう設計しました。少子化で子どもが少ないから、家族だけでなく地域の人でコミュニケーションを生み出す空間を作るという意識で。建て主さんもオープンな方で、それを提案したら『面白いですね』と共感してくださいました。クローズにしないことが逆に防犯になるという面もあります。開くことで閉じる、という意味ですね。もちろんお客様のスタイルとマッチしてということですけど。」

「すっきりとシンプルなデザインの中にワンポイントで本物の木があるというのはいいですね。」

「そうですね。外遊びが好きだということで、土間の中に靴を脱げる場所が欲しいと考えたときに、縁側みたいに座れる廊下がいいんじゃないかと。テーブルを持ってくれば椅子としても使えるし。それで手や足が直に触れる場所になるから、柔らかい木がいいなと思ってノルディックパインを選択しました。実際、今はご家族がそこに座っていたり、テーブルにしたり、ごろごろしたり、本を読んだり、いろんな使われ方をしているので、感じ取ってもらえたようです。」

「自由な使われ方をすることを最初から想定されていたんですね。」

「僕の場合はこの住宅に限らず、設計する上で室内を家具に支配され

たくないで、ちょっとした工夫をして、色々な使われ方をされるようにデザインで誘発しています。」

「また『HOUSE MR』ではヨーロッパオーク 148 ラスティックを採用していただいています。」

「UENOさんの扱うオークって品がいいって思うんですよね。品がいいのに粗さもある。それがいいなって。リクエストがラフな印象であっても、DIYのような味わいよりも、綺麗に美しく貼り上がるイメージを求める建て主さんが多いんですね。それにヨーロッパオーク 148 ラスティックは積層だけど暖かいのがいいですよ。」

「デザインの方向性的にシュッとしたものが多いので、節はない方がいいのかな？とも思うのですが、逆に、節を良しとされますよね？」

「そうですね。『品のよさと粗さ』『軽さと重さ』『繊細さと大胆さ』みたいな相反する価値が同居しているのが好きなんです。だから魅力があるんですよね。100%カッコいいわけでもない、100%シュッとしているわけでもない、そういう中で素材を選びたいと思っているので、『節があるけど品がいい』という UENO さんのオークが僕は好きなんです。UENO さんとの出会いをさかのぼると、元々は、幅広のフローリングを探していたんです。でもなかなか気に入ったものが見つからなくて。友人の設計事務所のオープンハウスでアドモントフロアに一目惚れして『これどこの？』って聞いて、それで知ったんです。ただ、ずっと建て主さんに提案してはフラレ続けていたんですよ。コストの問題が一番大きいんですけど。それで5年越しにようやく導入できることになって。やっと恋が実ったと思って (笑)」

建築デザインにおける床材の役割

費用の話をする、建築全体において床にかけられるコストって、多くの場合優先的ではないですよね。

「そう、床って広いじゃないですか。面積が大きい分、金額がガンと下がるから、そういう部分で最初に減額対象になりやすいですよね。でも、床の材料って重要なんですよ。床は空間の6分の1しかないけれど、いちばん人とコミュニケーションをとる場所だと思うんです。だから建て主さんに『頑張って、お願いします』と（笑）」

床材のセレクトは基本的に建て主さんの要望なのでしょうか。それともデザイナー的な選択なのでしょうか。

「それは建て主さんの要望が強いです。ただ選択肢のお勧めはしています。提案する床材はどれも、いいところと悪いところすべて説明します。そうすると素材の収縮を嫌がる方が多いし、見た目の部分では品のいいものが残る。だから最終的に UENO さんの床が選ばれることが多いんですよね。仕上がりのラインも木目も綺麗に見えて、しかもうるさすぎないというのがよくて。でもそもそも僕の場合、見た目のデザインをしたいというよりは、いろんな意見を吸収して成長する新しい枠組みをデザインしたいんです。建て主さんの希望って矛盾がいっぱいあるんですよ。でも、その矛盾がいいと思うんです。だから否定せずに、取り入れたいと思っていて。その条件を全部含めた結果、かたがちが出来上がっていくというイメージですね。最初から『素材は絶対これを使う』と決めるようなことはないですね。もちろん頭の中にイメージはありますけど。そこに固執するより、建て主さんの個性を楽しむようにしています。ひとつひとつの意見にヒエラルキーをつけずにフラットに受け入れる、というのが僕のデザインのソースになっているんです。」

生活スタイルや価値観は多様化しています。住宅もより個人的に多様化していくのが当たり前なのかもしれませんね。

「建築はもっと自由に、自分たちらしさが表現されていいと思うんですよ。ただ、その『自分らしさ』っていうのは、建て主さんと建築家のコミュニケーションがしっかりないと作れないものなんですよ。」

床はいちばん人とコミュニケーションをとる場所。



[HOUSE IC]

チーク 14B セレクト | HOUSE IC
小島光晴建築設計事務所 | Photo: 中村絵



[HOUSE ME]

ノルディックバイン | HOUSE ME
小島光晴建築設計事務所 | Photo: 中村絵

ARCHITECT INTERVIEW

Hisatsugu Takatsu



[NO NAME]

ヨーロッパオーク 148 現場塗装 | NO NAME
有限会社ハグホーム | Photo : 水谷綾子

空間のスタイリングと建材選び

ストーリー性のある家づくり。 だから建材にもストーリーと愛着を求めます。

空間をスタイリングする上で建材選びはどのようにされているのでしょうか。

「品質のよさというのはもちろんですけど、僕の場合はなによりまずは人ですね。建材を選ぶのでも、担当の方との相性がとても大事なんです。建材を売る側がその商品のことを本当に好きで、それを僕も好きになると、価値観の共有ができますよね。UENOさんの場合はヨーロッパの文化とか、商品を厳選している部分とか、そういうところにストーリーを感じられるのがポイントですね。産地っていうのも意外と決め手になるんですよ。国のイメージや歴史の背景があって、イメージが見えたり価値が生まれたりするでしょう。そして、それがうちの建築でもあるんです。『ストーリー性がある家づくり』っていうね。」

素材へのこだわりはとて強いですよね。リクエストもたくさんいただいたり。

「例えば『今までやっていないことをやってくれ』と言ってくれるお客様がいます。でも選ぶ基準っていうのはお施主様自身にはないんですね。だから選択のきっかけは僕がつくらなくちゃいけない。そういうときに連絡して、『こういうの？』って探してもらったりね。あと、この仕事をしていると家族との時間を削って働いていたりするわけじゃないですか。だから自分が提案する素材は、自分のパートナーのような気持ちで妥協せずに選びたいと思っています。」

物件ごとの樹種のセレクトはどのように考えられているのですか。

「物件というか、お施主様の好きな空間をまず聞いたときに、何がマッチするかを検討して樹種が決まってきますね。住んでいるお部屋の家具を見せていただいたり。例えばワンちゃんがいたら柔らかめの木を使おうとか、部屋ごとに考えていきます。なんていうか、服と同じ感覚ですね。フィットさせるという意味で。素材も全部ライフスタイルというか暮らしのひとつに考えているんですよ。肌触りと見た目と香り、その後の価値観とか。それをふまえてコーディネートしていくという。」

パインの樹種はよく使っていますよね。

「リビングには頑張ってワンランク上の床材を使いたいというお施主様でも、自分たちの寝室はこだわらないよ、という方が多いので、その場合はいちばんコストパフォーマンスがいいパインを使うことが多いですね。『Smile journey』はアドモントのパインなんですけど、これはお施主様のご希望の色に最初から一発で決めたんですよ。確か『ロン・ハーマンと無印良品を足して2で割った感じ』って言われたんです(笑)色が薄い方が木は綺麗ですよ。またそれが経年変化でいい色になって。アクセントにつや消しの黒を塗ったり、ところどころで遊び心のある感じになっています。アドモントは自然素材の中でもとても安定していますよね。木目はワンランク上の質感だし、暴れなくて反らないし。」



有限会社ハグホーム

高津久嗣

Hisatsugu Takatsu

㈸ハグホーム代表取締役。前身である㈸高津工務店は1932年創立。2009年、以前より自社ブランド HUGHOMEとして活動していて、お客様にも定着していた㈸ハグホームに社名変更し、代表に就任。設計から施工管理まで一貫し、造作家具や照明プランまでをトータルプロデュースする。上質な自然素材と普遍的なデザインをミックスした空間はどこか懐かしい雰囲気を感じさせ、クライアントのライフスタイルに合った住空間をオーダーメイドで形にしている。素材・環境・性能・デザイン、あらゆる角度から「居心地のよい自分らしい暮らし」を追求した注文住宅を提案している。2019年、DIYのできるコーヒーショップ「FRANK COFFEE and WORKSHOP」をオープン。

空間のスタイリングと建材選び



普通は一般的なオイル塗装品での納材が多いのですが、HUGHOME さんの場合は無塗装品で納めることが多いんですよね。

「それは僕の中で、オイル塗装をされていると既製品とか規格品という認識が働いてしまうだけかもしれないです。未塗装はまったくの無規格じゃないですか。自由に塗れる素材だから塗りたいくなる、という感覚ですね。だって塗れるんだもの（笑）っていう。そのときの塗料も1色じゃ満足できないから複数の色をブレンドしてみたりね。」

| 本当にオリジナルの、他の方が真似できない色になりますよね。

「そうですね、一般の方はバツと見では分からないかもしれないですけど、僕らは分かるんで。提案できるなら提案したくなりますよね。もし色がなければお施主様のイメージのために作るし、床と窓枠は基本的に同じ色で着色しますね。そのオリジナリティに対する努力はおお客様の満足感にもつながりますから。」

| そういうのってお施主様にとってはすごく楽しいですよ。

「楽しいけれどドキドキでもあり、ね。でもそれって本物の木だからできるんですよ。シート張りだったらありえない。カタログから選ぶだけです。肌触りも本物の木には勝てないですね。ただオリジナルだからこそ出来上がってみないと分からない部分もあって、そのワクワク感が作っている醍醐味にもなります。『カタログで見たあれを張るんです』では高揚感がないですよ。そういう楽しみと一緒に味わえるのが本物の木なんです。味や癖があるくらいがいいのかもしれない。経年変化もそうですし、何一つ完全に同じものがないというのは納めていて楽しいし。肌触りと香りも自然のものには敵わないです。そこが無垢の魅力かなと思いますね。」

自然素材の選択において 価値観や伝え方が変化した。

作る側もお施主様もいかに愛着をもてる家にしていくか、その点で自然素材を使うことは大きな意義があるわけですね。

「やっぱりご自分の家の話ですから。お施主様の愛着は相当ですよ。壁に頬をこすりつけている人もいましたよ。トイレで何時間でも過ごせそうとか（笑）でも前提として、人と人がつながっていないとそうならないんです。素材の良し悪しだけじゃない。自然の素材って、以前は基本的な情報を伝えることだけで精一杯だったんですよ。『自然素材の何がいいの?』という部分を伝えること。お施主様もメンテナンスを心配していたりね。でも、今は同じ自然素材でも会話の中身や価値観やその伝え方が変わってきたのかなと思います。単価と見え方だけじゃないです。今は選択のポイントの中に、ストーリーとか人の関わりが入っているんです。現代はそういう選択をする時代だと思うんですよ。」

HUGHOMEさんは常にトップランナーとして活躍されていますが、参考にされているものとかあるのでしょうか。

「まわりのことはあまり意識しないです。知り過ぎない方がいいと思うんですよ。じゃないとそっちに向かっちゃう。何かに似せたものを目指しちゃう気がするんですよ。でもそれだとオリジナルを出せないなと思って。何かを見て真似てではなく、ないものを目指した方が愛着持てますよね。」



Floor Line up

List

取扱商品一覧

○ オーク



オーク
Admonter - Oak
P.29



オークホワイト
Admonter - Oak
P.29



オークラスティック
Admonter - Oak
P.29



**オークラスティック
ホワイト**
Admonter - Oak P.30



オークミディアム・モカ
Admonter - Oak
P.30



オーク グレイ
Admonter - Oak
P.30



**ヨーロッパンオーク
150 ラスティック**
Ueno Original Floor - Solid
P.48



**ヨーロッパンオーク
120 ラスティック**
Ueno Original Floor - Solid
P.48



**ヨーロッパンオーク
57 ラスティック**
Ueno Original Floor - Solid
P.48



**ホワイトオーク
ヘリンボーン**
Ueno Original Floor - Solid
P.49



**ヨーロッパンオーク
148 セレクト**
Ueno Original Floor - Plywood
P.53



**ヨーロッパンオーク
148 ラスティック**
Ueno Original Floor - Plywood
P.53



**ヨーロッパンオーク
148 ワイルド**
Ueno Original Floor - Plywood
P.53



**ヨーロッパンオーク
190 セレクト**
Ueno Original Floor - Plywood
P.55



**ブルースオーク
ナチュラル**
Bruce
P.66



**ブルースオーク
ガンストック**
Bruce
P.66

○ パイン



パイン
Admonter - Soft Wood
P.41



ボルドーパイン
Bordeaux Pine
P.61



ノルディックパイン
Nordic Pine
P.65

○ その他の樹種



アッシュライト
Admonter - Hard Wood
P.38



アッシュミディアム・モカ
Admonter - Hard Wood
P.38



アッシュグレイ
Admonter - Hard Wood
P.38



チェリー
Admonter - Hard Wood
P.39



ウォルナット
Admonter - Hard Wood
P.39



ラーチ
Admonter - Soft Wood
P.41



ラーチグリーンジョ
Admonter - Soft Wood
P.41



アカシア
Ueno Original Floor - Solid
P.49



**ウォルナット148
セレクト**
Ueno Original Floor - Plywood
P.55



**カナディアンメープル
148 セレクト**
Ueno Original Floor - Plywood
P.55



桐フロア
Paulownia
P.67

Finish & Care

Maintenance

仕上げとお手入れ

QRコード

フロアメンテナンスガイド



amazon
アドモント



amazon
Bona



yahoo!
ショッピング



詳しいお手入れ方法は「UENOJYUKENフロアメンテナンスガイド」をご覧ください。



Finish

仕上げ

未塗装品



好みに合わせた塗料を選択可能

フローリングの表面に塗装仕上げが施されていない状態のもので、耐水性・耐久性の観点からこのままでの使用はおすすめしません。オイル、自然塗料、ウレタン等を使用して仕上げを行う必要がありますが、塗料の種類や色を自分の好みで選ぶことができるのが未塗装品のメリットです。

オイル仕上げ品



木の質感を感じられ、セルフリペアが可能

植物油（例：蜜蝋、亜麻仁油、カルナバースオイル）を主成分としたオイルが塗布され、表面が保護されている状態です。貼るだけでそのままお使いいただけます。塗装の中で最も木材の質感を感じることができ、キズ、へこみのリペアもセルフで行うことができます。

UV 塗装品



木の質感を感じられ、耐久性・耐水性にも優れる

専用の塗料を紫外線照射し、硬化させる仕上げ方法です。表面の塗膜を硬くすることで耐久性・耐水性に優れます。マットな仕上がりで、オイル仕上げのように木の自然な風合いを感じられます。

ウレタン塗装品



木の表面に塗膜を作り、耐久性・耐水性に優れる

ウレタン系の樹脂を主成分とした塗料で床材の表面に薄く硬い膜をつくる仕上げ方法です。表面に塗膜をつくることで、耐久性・耐水性に優れます。

Care

お手入れ

こだわりを持って選んだ木の床を、トラブルなく良好な状態で使い続けるためには、日ごろのお手入れが大切です。無垢の木は私たちの想像以上に温度や湿度にデリケートな素材です。夏場・冬場のエアコンや床暖房の使用により、木は乾燥します。乾燥が進みすぎて過乾燥の状態になると、木の表面にひび割れやささくれが発生することがあります。

オイル塗装済みの床材は、日々の生活の中で表面のオイルの層が少しずつ、すり減っていきます。トラブルを起きにくくするため、床表面のオイルを補充してあげることが大切です。定期的なオイルメンテナンスにより、木はより摩擦に強くなっていきます。

お好みのお手入れのスタイルや床材のメーカーによって、オススメするケア用品が異なります。（左記 QR コード参照）

フロアケアの基本

- 水をこぼしてしまった場合は、乾いたまたは固く絞った雑巾ですぐに拭き取ってください。
- 市販のワックスや万能クリーナーの使用は床を傷める原因となる場合がありますので、ご使用をお控えください。
- 化学モップは黒ずみの原因となりますので、ご使用をお控えください。
- 床暖房運転時にカーペットやラグなど放熱を妨げるものは使用できません。
- 床の上のゴミやほこり、特に触ってザラザラするものは放置せずに取り除きましょう。
- 傷をつけたくない場合は、家具やイスの脚には保護シール等を使うようにしましょう。

Material

素材・性質から床材を選ぶ

Wood

樹種

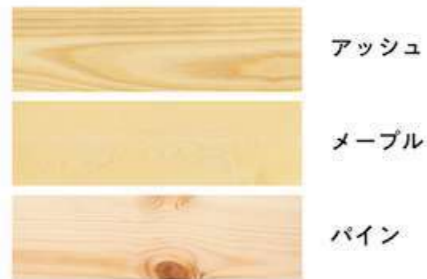
	オーク	無垢床材の定番となっているオーク材（ナラ）。比較的潤沢に採れる木で、世界中で家具や床材、ウイスキーやワインの樽の材料などに幅広く使用されています。堅く耐久性があり、穏やかな風合いがどんな部屋にもマッチします。		Oak
	アッシュ	モクセイ科の広葉樹。粘りと強度があり衝撃に強い他、加工しやすく、表面の仕上がりがきれいな家具材としても人気があります。北欧家具などの定番品としても一般的に使われています。辺材は白色。心材は淡灰褐色。		Ash
	メイプル	カエデ科の落葉広葉樹。高級家具や楽器などによく用いられます。辺材は淡いクリーミーな黄白色。木目が緻密で比較的やさしい印象です。		Maple
	ラーチ	素朴でワイルドな針葉樹（唐松）。大胆な波紋のような不規則な木目のくっきりとしたコントラストが特に印象的です。主張のある個性的な空間演出に最適です。和室にもよく合う素材です。		Larch
	アカシア	マメ科の広葉樹。辺材は淡い黄色になり心材は淡い茶色で濃淡のはっきりとした樹種です。広葉樹の中でも比較的弾力性に優れ、歩き心地が良いことが特徴です。		Acacia
	チェリー	木肌のきめの細かさと赤みのある色合いが特長のチェリー材はバラ科サクラ属の広葉樹。使い込むほど飴色に変化し、高級感があります。		Cherry
	ウォルナット	欧米で高級家具や工芸品などによく使用される美しい木肌のウォルナット材。深いブラウン色と重厚感のある風合いが特長です。特にヨーロッパで人気のある素材です。		Walnut
	パイン	比較的加工しやすく、そのため家具材としてよく用いられるパイン材（マツ科）。白みと黄色みのある家庭的なやさしい雰囲気から、カントリー調のインテリアや子ども部屋などにもマッチします。		Pine

木材は樹種ごとに見た目や性質が異なります。色合いや節の有無、硬さなどそれぞれの樹種の違いを理解したうえで、生活スタイルやお部屋のイメージにあわせて、あなたにぴったりの床材をお選びください。

Color

色調・明暗

Light 明るい色あい



Mid 中間の明るさ



Dark 暗い色あい



Hardness

硬さ

Hard 硬め



Soft 柔らかめ



Type

タイプ

単層（無垢材）



丸太から切りだした一枚ものの木材。乾燥するとひび割れなどが入りやすいですが、天然の木本来の質感や風合いが感じられます。調湿作用に優れており、室内に湿気がある場合は水分を吸収し、乾燥している場合は水分を放出して湿度を一定に保とうとします。そのため、伸び縮みするという性質があります。



複合（三層・積層）



厚み方向に板を張り合わせた複数層で構成されています。層を重ねることでそりやねじれが抑えられるため、寸法安定性が高く床暖房（低温式）にもお使いいただけます。弊社では表層材に3~4mm程度の厚みの挽板を使用していますので、削れても下地が出てくるということはなく安心してお使いいただけます。



カタログ上のタイプ記載（マーク）について



床暖 床暖房対応商品



低温床暖房に対応する独自の三層構造

Admonter

アドモント Oak - Hard Wood - Soft Wood

Detail

歴史

Admonter社は1074年を起源とする歴史と伝統をもつ良質な無垢三層床材メーカーです。11世紀にオーストリア・アドモント修道院の修道僧たちは教会の建築と村民の雇用のために修道院が所有する森林から木を伐採し、建築資材へと加工し利用していました。アドモントフロアはこれを起源とし、1874年に初めて工業的なプロセスで木材の加工をスタート。長い歴史の中で世界トップクラスの技術と品質を確立しました。

独自の三層構造無垢材で、低温床暖房に対応

各層の繊維方向を交差させた独自の三層構造により、無垢材の反りやねじれを最小限に抑えます。そのため無垢材でありながら低温床暖房の使用が可能です。また三層構造の寸法安定性から幅広フラットな張り上がりを実現させています。



アドモントフロアの原材料の産地

オーストリア、フィンランド、ハンガリー、チェコ共和国、ウクライナ、フランス、ドイツ、ベルギー、クロアチア、スロバキア、スロベニア
※ウォルナットはアメリカ、メイプルはカナダ

品格を感じる張りあがりの美しさ

アドモントフロアでは原料の丸太の段階からトップグレードの品質にこだわっています。上質な丸太から作られたアドモントフロアには落ち着いた品の良さがあり、洗練された空間を演出します。原材料から妥協することなく、より上質なものを選ぶ。これがアドモントフロアです。

品質管理

創業当時から現代に至るまで、徹底した品質管理を維持していることがアドモントフロアの誇りです。高い基準での品質管理を実現させているのは、木材の優れたグレーディング技術です。“Wood-Eye”と呼ばれる最新の機械を使い選別、更に人間の目によって丁寧に確認が行われます。常に一定の精度を保っています。

デザイン創造と技術力

アドモントフロアでは、常に市場の先端をいくフロアデザインを提供しています。そして、新しいデザインを実現できる高い技術力も魅力となります。

健康にやさしい仕上げ

蜜蝋・亜麻仁油・カルナバースオイルが主成分の身体にやさしいワックスが塗装されています。

Oak

Admonter



Admonter - Oak

オーク節なし | 天童の家 | アーキテクチャランドスケープ 濱谷達郎

オーク



Oak

オーク

落ち着いた色合いと木目が、世代を問わず好まれる木。
さらに材質も硬く、安定性もあるため
さまざまなスタイルの住宅で採用されています。

節なし | 仕上げ：ナチュラルオイル仕上げ
サイズ：2000×158×15mm
入数：7枚入り | 2.21 m²/ケース



床暖



Oak White

オークホワイト

ホワイトオイル塗装によるミルキーな色合いが特長。
より空間が落ち着いた上品な印象になります。

節なし | 仕上げ：ナチュラルオイル仕上げ
サイズ：2000×158×15mm
入数：7枚入り | 2.21 m²/ケース



床暖



Oak Rustic

オークラスティック

オークの節の部分を含んでおり、
木目も荒々しい表情のグレードです。
無垢の荒削りな自然さが演出されます。

節あり | 仕上げ：ナチュラルオイル仕上げ
サイズ：2000×158×15mm
入数：7枚入り | 2.21 m²/ケース | パテ埋箇所有



床暖

オーク



Oak Rustic White

オークラスティック ホワイト

オークラスティックのホワイトオイル塗装品です。
ラフな雰囲気と上品さとのバランスが
絶妙な仕上がりです。

節あり | 仕上げ：ナチュラルオイル仕上げ
サイズ：2000×158×15mm
入数：7枚入り | 2.21 m² / ケース | パテ埋箇所有



床暖



Oak Medium Mocca

オークミディアム・モカ

オーク材をサーモ処理して色づけました。
熱の力による自然な発色と
アンティークな雰囲気が魅力です。

節あり | 仕上げ：ナチュラルオイル仕上げ
サイズ：2000×188×15mm
入数：7枚入り | 2.63 m² / ケース | パテ埋箇所有
サーモ処理加工品



床暖



Oak Gray

オーク グレイ

ブラッシュ（うづくり）仕上げをした表面に
グレー色を塗装しました。
落ち着きのある定番のグレーカラー。

節あり・うづくり加工 | 仕上げ：ナチュラルオイル仕上げ
サイズ：2000×158×15mm
入数：7枚入り | 2.21 m² / ケース



床暖



Admonter - Oak

オーク筋なし ホワイト | 太陽の光を感じる家 | アーキプレイス
Photo : Archiplace





Admonter - Oak

オークラスティックホワイト | カルチャ・コンビニエンス・クラブ本社新装工事
ジョイントセンター株式会社 | Photo : MEGUMU WADA





Hard Wood

Admonter





ハードウッド (広葉樹)



Ash Light

アッシュライト

個性的で大らかな木目と温かな白さが、
明るく印象的な室内を演出します。
使い込むほど木肌が馴染みインテリアがより魅力的に。

節なし | 仕上げ：ナチュラルオイル仕上げ
サイズ：2000×192×15mm
入数：7枚入り | 2.69 m² / ケース



床暖



Ash Medium Mocca

アッシュミディアム・モカ

独特の個性的な木目と、サーモ処理による
鮮やかなブラウン色が印象的な床材です。
空間を落ち着かせるミディアム色。

節なし | 仕上げ：ナチュラルオイル仕上げ サーマ処理加工品
サイズ：2000×188×15mm
入数：7枚入り | 2.63 m² / ケース



床暖



Ash Gray

アッシュグレイ

個性的な木目と、
落ち着いたある定番のグレーカラーが魅力です。

節なし | 仕上げ：ナチュラルオイル仕上げ
サイズ：2000×192×15mm
入数：7枚入り | 2.69 m² / ケース



床暖



Cherry

チェリー（2枚継ぎ）

あたたかなイメージのお部屋にぴったりの上品な赤みを持った木です。時間とともに深く美しい煉瓦色へと変化していきます。

節あり（板目）| 仕上げ：ナチュラルオイル仕上げ
サイズ：2000×192×15mm
入数：7枚入り | 2.69㎡ / ケース | パテ埋箇所有



床暖



Walnut

ウォルナット

ほどよい重厚感のある深いブラウン色と白い部分が交じり合う木目が印象的。強い存在感を発揮し、空間のイメージを一変させる力があります。

節あり | 仕上げ：ナチュラルオイル仕上げ
サイズ：2000×158×15mm
入数：7枚入り | 2.21㎡ / ケース | パテ埋箇所有



床暖



Admonter - Hard Wood

ウォルナット | N 部 | SUZUMEBACHI | Photo: 母倉知樹

Soft Wood

Admonter

Admonter - Soft Wood

ラーチ | ハイスペックなスタンダードハウス | 有限会社大森建興

Photo : 村井勇 (アトリエラボン)



ソフトウッド（針葉樹）



Pine

パイン

明るい色の健康的な木肌と大きめの節が特長です。針葉樹の中では丈夫で足触りも良いので、子供部屋などにもおすすめです。

節あり | 仕上げ：ナチュラルオイル仕上げ
サイズ：2000×161×15mm
入数：7枚入り | 2.25㎡ / ケース | パテ埋箇所有

節あり | 仕上げ：未塗装品
サイズ：2000×161×15mm
入数：7枚入り | 2.25㎡ / ケース | パテ埋箇所有



Larch

ラーチ

丸い節とはっきりした木目が特長の針葉樹です。明るめの茶色が美しい飴色へと次第に変化していく様子を楽しめます。

節あり | 仕上げ：ナチュラルオイル仕上げ
サイズ：2000×161×15mm
入数：7枚入り | 2.25㎡ / ケース | パテ埋箇所有



Larch Grigio

ラーチグリージオ

独特の雰囲気を出し出す、個性的な木目のコントラスト。アンティークな雰囲気と和のテイストを合わせもつ、不思議な魅力があります。

節あり | 仕上げ：うづくり加工 ナチュラルオイル仕上げ
サイズ：2000×192×15mm
入数：7枚入り | 2.69㎡ / ケース | パテ埋箇所有
サーモ処理加工品





高品質のフロアをお求めやすい価格で

Ueno Original Floor

オリジナルフロア Solid - Plywood

Detail

コンセプト

Ueno Original Floor は、「品質の高いものを手の届く価格で」をコンセプトに、長年海外メーカーをメインに無垢床材を取り扱ってきたノウハウを活かし、自社ブランドとして提供している商品です。原材料を樹種に応じてヨーロッパを中心とした各国から調達し、加工・製造をアジアで行うことで、高いコストパフォーマンスを実現しています。

低温床暖房対応

芯材にパーチ積層材を 100%使用する事で、高い形状安定性を実現。低温床暖房の使用が可能です。

- 性能試験データ 温水マットによる 1100 時間連続加熱試験
供給温水 80°C | 床材表面温度 45~50°C | H29.8 実施

隙間 (エンド)	0.2~0.95mm	段差 (エンド)	0.0~0.35mm
隙間 (サイド)	0.3~0.7mm	段差 (サイド)	0.05~0.4mm
		反り (カッピング)	-0.18~-0.55mm

「低温床暖房対応」とは、床の表面温度が28°Cを超えない範囲での使用を意味します。一般的に木材は28°Cを超えると放湿が激しくなり、割れや反りが生じやすくなります。また、基準の範囲内で使用することは、低温やけどを防ぐことにもつながります。
(※一部、低温床暖房に対応していない商品もございます。)



素材感へのこだわり

無垢材では厚み15~18mm、積層床材においても表層材を4mmと厚く設定しております。これは、フローリングは住宅の中で最も人の肌が触れる場所であると考え、できるだけ無垢の木の質感を感じてもらいたいからです。厚く設定する事で、床表面を削って再生させることも可能です。

Solid ソリッド | 無垢

オーク、アカシアを原材料とした無垢床材です。一枚ものならではの迫力が感じられる材です。経年変化を感じながら、何百年も使い続けられる確かな品質をもっています。



Plywood プライウッド | 積層

オーク、メイプル、ウォルナットを原材料とした積層床材です。幅広フラットな仕上がり、低温床暖房に使える機能性を兼ね備えています。



Solid

Ueno
Original
Floor

Ueno Original Floor - Solid

ヨーロッパ産オーク 150 ラスティック | 鶴の家
スタジオシナプス | Photo: 鳥村 鋼一



Ueno Original Floor - Solid

ヨーロッパオーク 120 ラスティック

関南町 Project II モデル B 「川の景色を味わうダイニング」

吉川不動産株式会社





Ueno Original Floor - Solid

ヨーロッパ産オーク 57 ラスティック
extend | 株式会社モリタ装芸

Solid



Oak 150 Rustic

ヨーロッパオーク 150 ラスティック

節あり | 仕上げ: オスモオイル仕上げ
サイズ: 18×150× 乱尺 (450 ~ 1200mm)
入数: 2.20 m²入 / ケース | パテ埋箇所有

節あり | 仕上げ: 未塗装
サイズ: 18×150× 乱尺 (450 ~ 1200mm)
入数: 2.20 m²入 / ケース | パテ埋箇所有



Oak 120 Rustic

ヨーロッパオーク 120 ラスティック

節あり | 仕上げ: オスモオイル仕上げ
サイズ: 18×120 × 乱尺 (300~1200mm)
入数: 2.16 m² / ケース | パテ埋箇所有

節あり | 仕上げ: 未塗装
サイズ: 18×120 × 乱尺 (300~1200mm)
入数: 2.16 m² / ケース | パテ埋箇所有



Oak 57 Rustic

ヨーロッパオーク 57 ラスティック

節あり | 仕上げ: オスモオイル仕上げ
サイズ: 18×57 × 乱尺 (300~1200mm)
入数: 2.05 m² / ケース | パテ埋箇所有

節あり | 仕上げ: 未塗装
サイズ: 18×57 × 乱尺 (300~1200mm)
入数: 2.05 m² / ケース | パテ埋箇所有



主にヨーロッパ・オーストリアで育ったオークを原材料とした無垢床材です。
オークならではの迫力が感じられ、経年変化が楽しめます。



Acacia 120 Rustic

アカシア 120 ラスティック

節あり | 仕上げ: オスモオイル仕上げ
サイズ: 18×120 × 乱尺 (300~1200mm)
入数: 2.16 m² / ケース | パテ埋箇所有

節あり | 仕上げ: 未塗装
サイズ: 18×120 × 乱尺 (300~1200mm)
入数: 2.16 m² / ケース | パテ埋箇所有



Herringbone

ホワイトオーク
ヘリンボーン

仕上げ: 未塗装品
サイズ: 15×60×420mm
入数: 1.64 m²入 / ケース



Ueno Original Floor - Solid

アカシア 120 ラスティック

関南町 Project II モデル B 「川の景色を味わうダイニング」 | 吉川不動産株式会社



Ueno Original Floor - Solid

ヨーロッパアンティーク ヘリンボーン | 五千石の家 | 一級建築事務所アーキラボ

Plywood

Ueno
Original
Floor

Ueno Original Floor - Plywood

ヨーロッパオーク 148 ワイルド | O/4

TOK205 一級建築士事務所

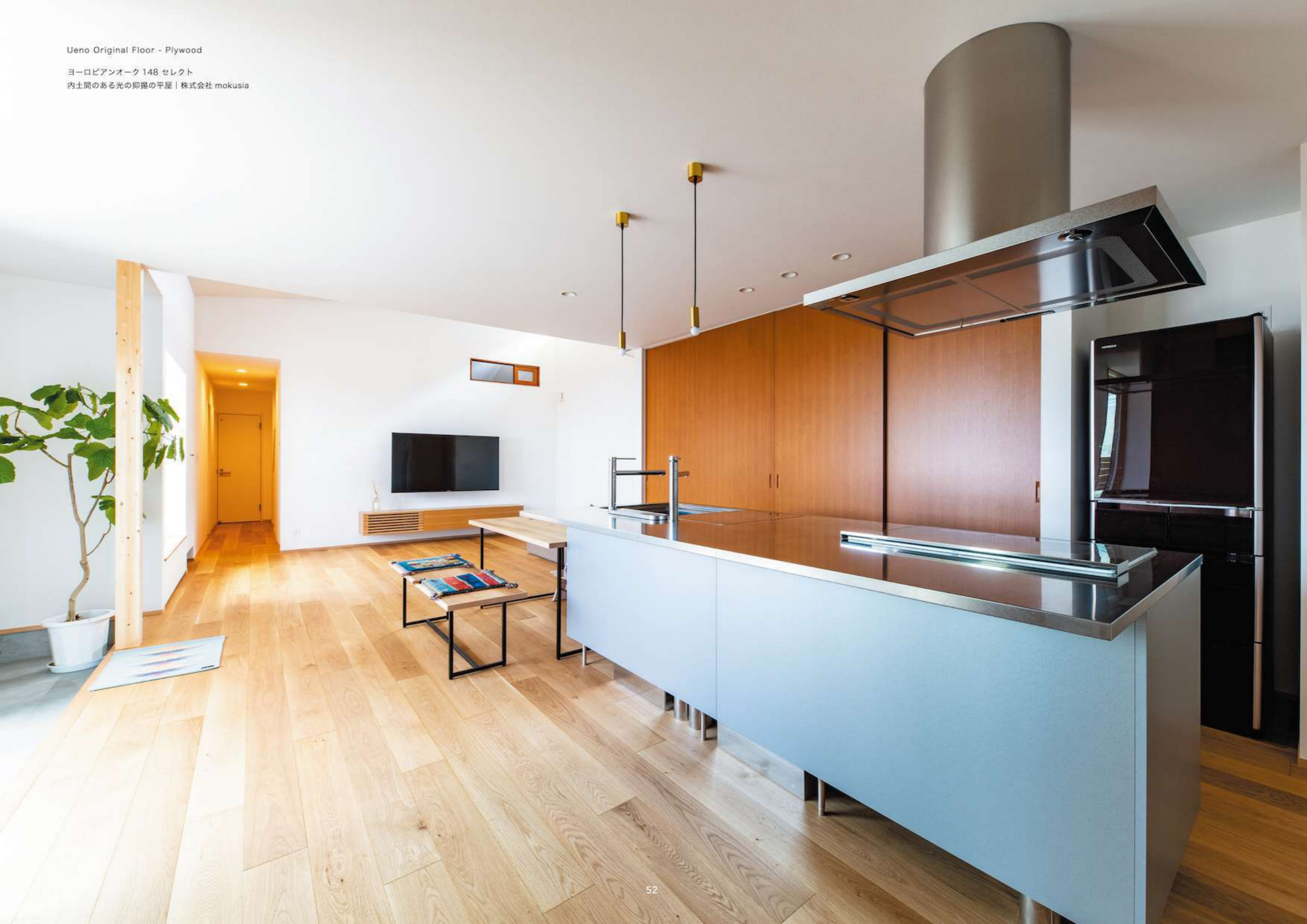




Ueno Original Floor - Plywood

ヨーロッパオーク 148 セレクト

内土間のある光の抑揚の平屋 | 株式会社 mokusia



Plywood

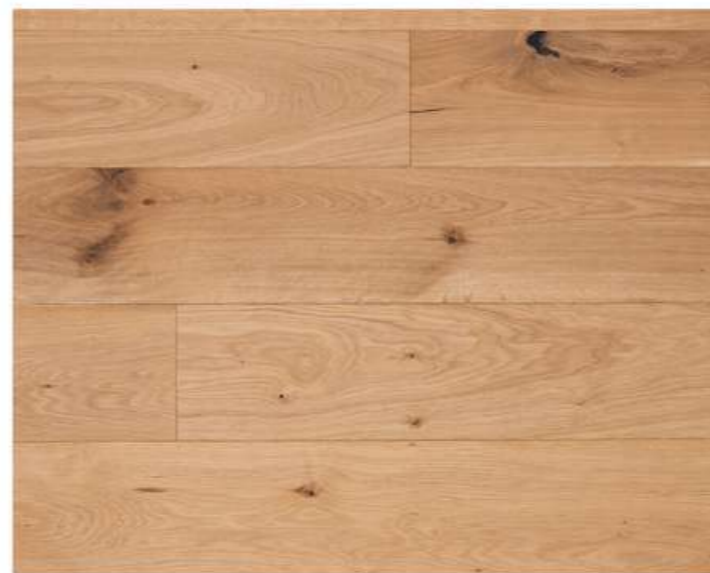


Oak 148 Select

ヨーロッパオーク 148 セレクト

節あり | 仕上げ: オスモオイル仕上げ
サイズ: 15×148 ×1860mm
入数: 2.20 m² / ケース

節あり | 仕上げ: 未塗装
サイズ: 15×148 ×1860mm
入数: 2.20 m² / ケース



Oak 148 Rustic

ヨーロッパオーク 148 ラスティック

節あり | 仕上げ: オスモオイル仕上げ
サイズ: 15×148×1860mm
入数: 2.20 m²入 / ケース
パテ埋箇所有

節あり | 仕上げ: 未塗装
サイズ: 15×148×1860mm
入数: 2.20 m²入 / ケース
パテ埋箇所有



Oak 148 Wild

ヨーロッパオーク 148 ワイルド

節あり | 仕上げ: オスモオイル仕上げ
サイズ: 15×148×1860mm
入数: 2.20 m²入 / ケース | パテ埋箇所有



表層材 4mm 厚の贅沢な無垢の質感と幅広のフラット感、
そして低温床暖房にも使える機能性を兼ね備えています。

Plywood

Ueno
Original
Floor

Ueno Original Floor - Plywood

ヨーロッパオーク 190 現場塗装
UT-house | TNdesign 一級建築士事務所

Plywood



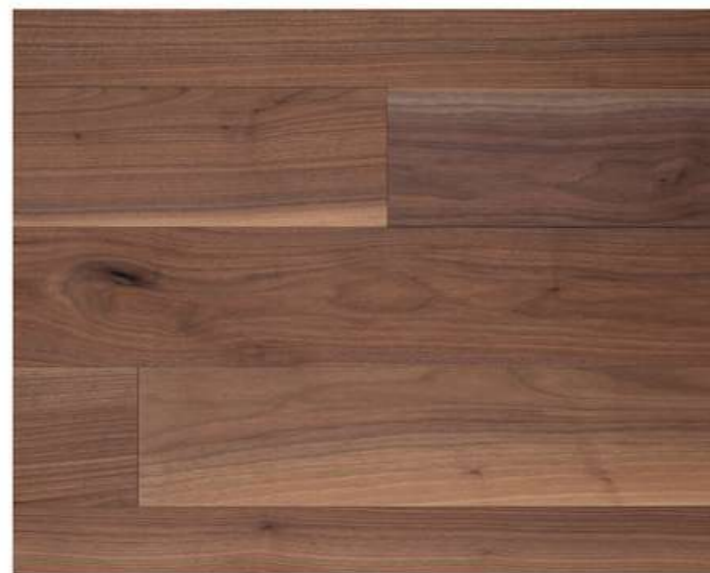
Oak 190 Select

ヨーロッパオーク 190 セレクト

節あり | 仕上げ：オスモオイル仕上げ
サイズ：15×190 ×1900mm
入数：2.17 m²入 / ケース | パテ埋箇所有



床暖



Walnut 148 Select

ウォルナット 148 セレクト

仕上げ：オスモオイル仕上げ
サイズ：15×148×1860mm
入数：2.20 m²入 / ケース



床暖



Canadian Maple 148 Select

カナディアンメープル 148 セレクト

仕上げ：オスモオイル仕上げ
サイズ：15×148 ×1860mm
入数：2.20 m²入 / ケース



床暖

表層材 4mm 厚の贅沢な無垢の質感と幅広のフラット感、
そして低温床暖房にも使える機能性を兼ね備えています。

Ueno Original Floor - Plywood

カナディアンメープル 148 セレクト

層雲の家 | 太田設計舎

Photo: 楠瀬友将



Ueno Original Floor - Plywood

ウォルナット 148.セレクト | KT HOUSE

設計施工：roomz 株式会社皇野建築事務所

撮影：AK PHOTO



Ueno Original Floor - Plywood

ヨーロピアンオーク 148 ワイルド

鴨川の家 | 株式会社 SNARK



UV Painting Program

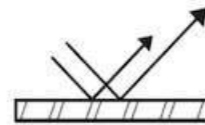
UENO ORIGINAL FLOOR ヨーロピアンオーク 148 セレクト/ラスティックに UV 塗装仕上げの選択肢が加わりました。UV 塗装は耐水性・耐久性に優れており、これまでオイル仕上品の使用が難しかった店舗や公共施設や住宅の水回りにも使用する事ができます。様々なシーンに応じて、オイル仕上と UV 塗装仕上をお選びください。質感はオイル仕上げと同等の木の自然な風合いを感じられるマットな仕上がりです。



Protection

保護

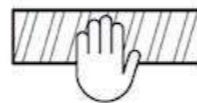
耐水性と耐摩耗性に優れており、歩行頻度の高い店舗や公共施設、住宅の水回りへの使用が可能となります。



Gloss

光沢

光沢は床の印象に大きな影響を与えます。UENO ではマットなツヤにこだわり、オイル仕上と同等の 6-8% のツヤで提供します。



Feeling

手触り感

無垢フローリングは質感が重要な要素の一つです。例えば一般的なウレタン塗装はフラットで冷たい印象を与えがちです。UENO の UV 塗装は、できる限り木の直接触れている感触に仕上げます。

Color

塗装色

フローリングのカラーリングは、インテリアをコーディネートする上で非常に重要です。建具や壁に合わせて。また、家具に合わせて。お好みのカラーを選択できます。基本のカラーラインナップに加えて、オーダーメイドの調色対応も可能です。



クリア



ホワイト



グレー



ミディアム



ダーク



Oak 148 Select

ヨーロピアンオーク 148
セレクト



Oak 148 Rustic

ヨーロピアンオーク 148
ラスティック



Bordeaux Pine

ボルドーパイン

Bordeaux Pine



Bordeaux Pine

ボルドーパイン

節あり | 仕上げ：未塗装品
サイズ：20×200×2000mm
入数：1.6㎡入 / ケース
※プレーナー跡などが残るラフな表面仕上げです。

フランスのボルドー地方で育ったパインの床材です。
20mmもの厚みの床材が作れるのはパインという樹種ならではの、
無垢の迫力をお楽しみください。



Bordeaux Pine

ボルドーパイン

左 | 番町教会 | 手塚建築研究所 | Photo: 木田勝久 / FOTOTECA
右上 | トラットリア ノラ・クチーナ | 株式会社新潟ヒロタカデザイン事務所
右下 | みはらしの家3 | 設計: コルポ建築設計事務所 | 施工: 株式会社スタジオ暖 | 撮影: 志鎌康平







Nordic Pine

ノルディックパイン | 採光を設計した住まい | 有限会社大森建興

Photo: 村井勇 (アトリエラボ)

Nordic Pine

ノルディックパイン



Nordic Pine



Nordic Pine

ノルディックパイン

節あり | 仕上げ: 未塗装品
サイズ: 15×114×1977mm
入数: 1.58 ㎡入 / ケース



北欧産パインの床材です。
節があり比較的やわらかく、あたたかみのある床材です。

Nordic Pine

ノルディックパイン | 桜井邸 | 株式会社 SATO 建設工業
ノルディックパイン | 広場の角のバルコニーハウス | 手塚建築研究所



Bruce



Bruce Natural

ブルースオーク ナチュラル

仕上げ：ウレタン仕上げ・4辺糸面取り
サイズ：19×57×乱尺（約200～1800）mm
入数：1.86㎡入/ケース



Bruce Gunstoc

ブルースオーク ガンストック

仕上げ：ウレタン仕上げ・4辺糸面取り
サイズ：19×57×乱尺（約200～1800）mm
入数：1.86㎡入/ケース



Bruce

ブルース

ブルースは、アメリカにおいて床材づくり100年以上の歴史をもつ、自然で美しい無垢材のフロアを提供するメーカーです。仕上がりの精度だけでなく耐久性も評価が高く、住宅のみならず店舗、美術館、体育館などの公共施設にも使用されています。ベーシックで飽きのこないデザインが根強い人気です。



Paulownia

桐フロア

Paulownia



Paulownia

桐フロア

仕上げ：未塗装品
サイズ：1820×150×12mm
入数：10枚入 | 3.276㎡ / ケース



仕上げ：未塗装品
サイズ：1820×150×15mm
入数：6枚入 | 1.638㎡ / ケース



桐フロアは色が明るく淡白色で、表面の硬さは非常にやわらかい木材です。そのため保育施設や高齢者施設等での使用に適しています。材質は軽く・柔らかく、保温性に優れています。

UENO JYUKEN

上野住宅建材株式会社

〒954-0111

新潟県見附市今町6-28-31

TEL. 0258-66-2520 FAX. 0258-66-2501

E-MAIL office@uenojyuken.co.jp

URL <http://www.uenojyuken.co.jp>

2023年8月発行

発行元：上野住宅建材株式会社



Ueno Original Floor - Solid

ヨーロッパオーク 150 ラスティック | 中庭のある黒い家
株式会社山岡建築研究所 | Photo: 大沢誠一

